

## 南小たば風通信 2019

令和元年9月3日(火) 第15号

## 北海道教育大学附属函館小学校 参加レポート

北海道教育大学附属函館小学校で開催された、教育研究大会に参加してきました。頂いてきた資料を回覧していますので、ご覧になってください。報告が遅くなり、すみません。

附属小学校では、子どもの主体性に力を入れており、研究主題は「子供が学びをつくる学校」～自らをモニタリングし、メタ認知する子供～が研究主題でした。研究部長の話の中で、何度もでてきたメタ認知という言葉がありますが、メタ認知は、私たちがしている「分かろうとする」活動を自分で「分かる」ようにして、捉えることです。「子どもが学びをつくる」というものは、子どもが自ら課題を設定し、「子どものやってみたい」「学んでみたい」を出発点とし、今までに身につけた多様な方法から、目的に応じ子どもが選択して、解決に向かって追求し続ける。そして、学習の成果をそれぞれの方法で相手を意識して表現するそうです。

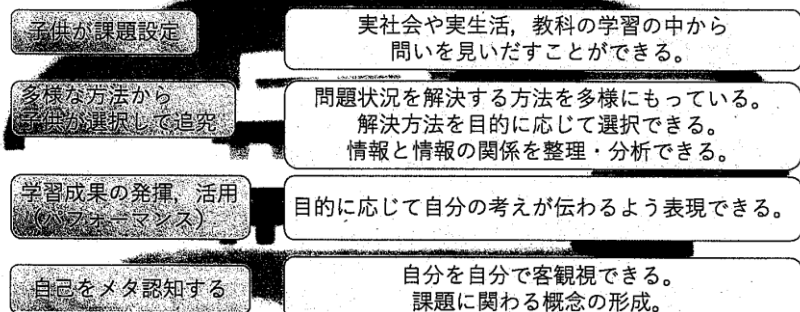
ただ、メタ認知は、大人でも自分を冷静に客観視して自己調整をしたり、統制することは難しく、小学校段階の子どもではあまりにも難しいそうです。ですので、附属小学校では、メタ認知の素地となる活動や経験、能力を整理して、低中高の発達段階に即したメタ認知の姿を策定して、共に学ぶ仲間とのやりとりの中で、仲間を理解し、仲間と対話的に活動する中で、子どものメタ認知の力は高まっていくと考えるそうです。

**子供が行事をつくる** 縦割りの運動会では、子どもが内容、テーマ等全てを企画、立案しているそうです。グループやプロジェクトチームを立ち上げる等の追求方法を子どもが選択して計画を練ったり・修正したりしながら活動を進めます。教師は裏方としてサポートし時に叱咤激励をしながら、子どもとともに行事を作り上げていくそうです。

3. 今年度の研究の重点 メタ認知		子供が学びをつくる学校
<b>メタ認知の概略</b>		
メタ認知Metacognition		
私たちがしている「分かろうとする」活動を自分で「分かる」ようにして、捉えること。		
<b>メタ認知の活動</b>		
モニタリング	コントロール	
<input type="checkbox"/> ここ分からん・・・気付き <input type="checkbox"/> お！何か分かった！・・・感覚 <input type="checkbox"/> これなら5分でいけそう。 <input type="checkbox"/> ...予想 <input type="checkbox"/> このやり方でいいのか？ <input type="checkbox"/> ...点検	<input type="checkbox"/> ここが分からないから、まずは大体を捉えよう。 <input type="checkbox"/> ...目標・計画設定 <input type="checkbox"/> このやり方では駄目だ。違う方法でやってみよう。 <input type="checkbox"/> ...修正	

三宮真知子(2013)を参考に、本校の研究に合わせて改変

## 子供が学びをつくるゴールの姿

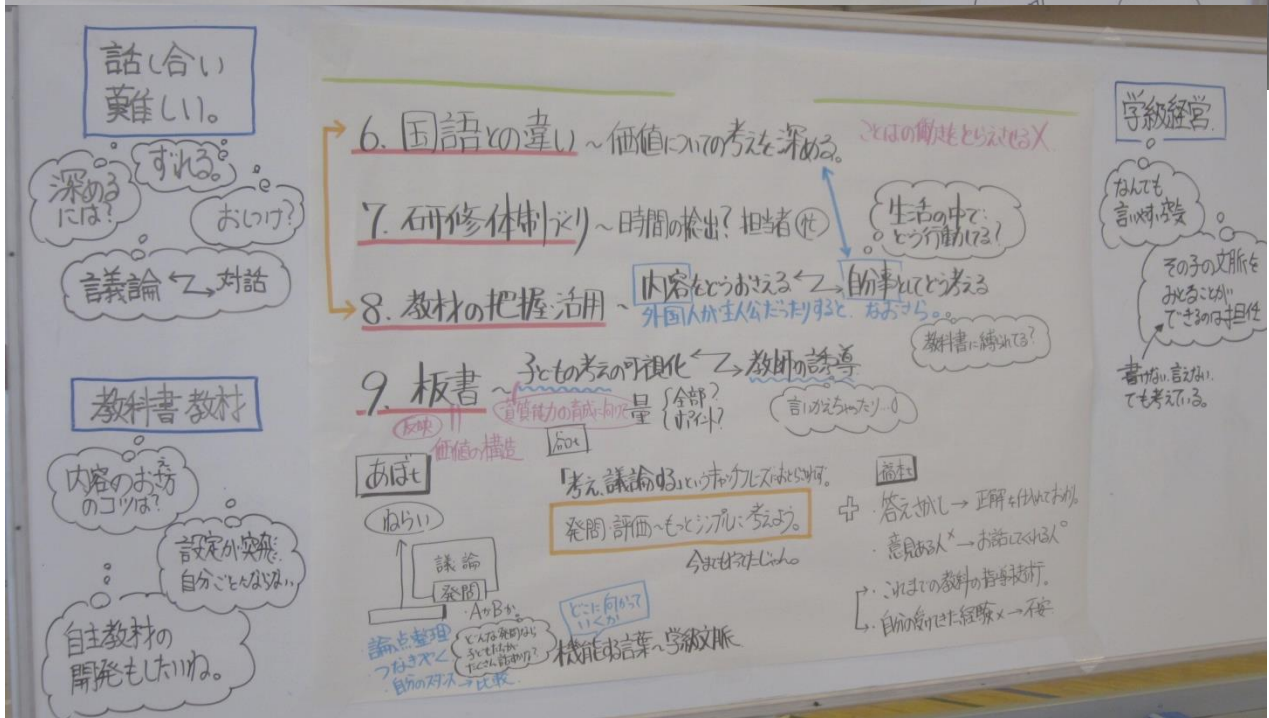
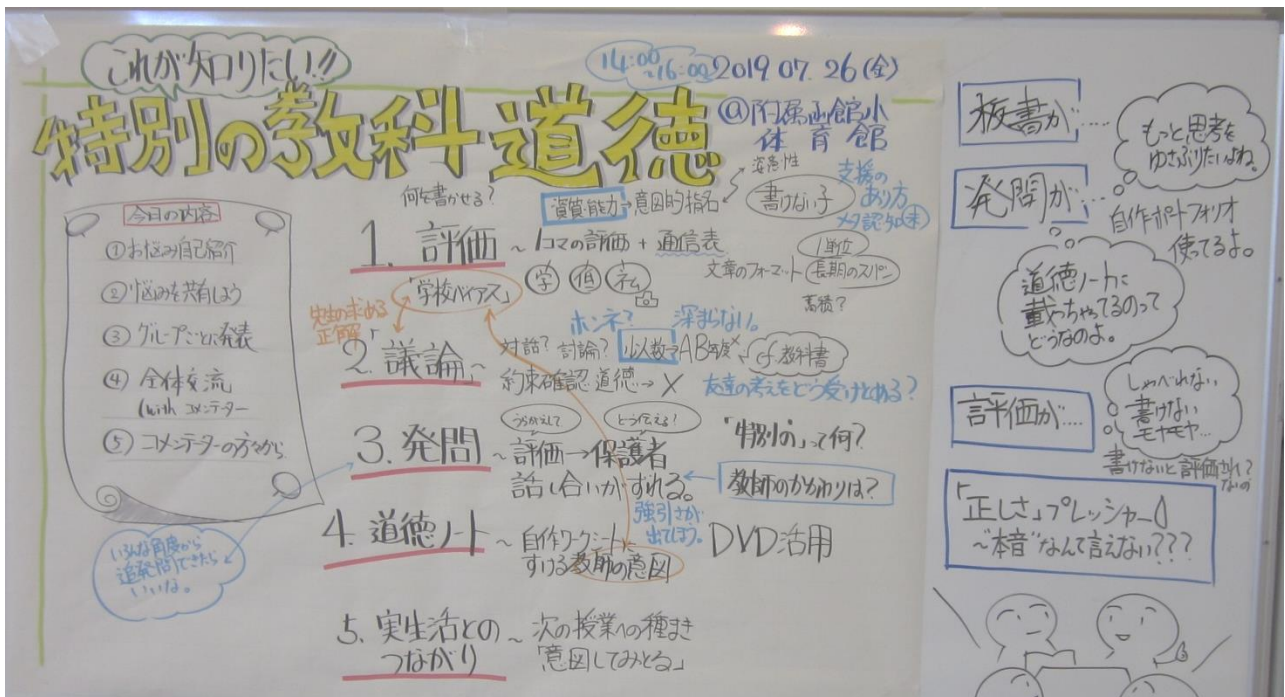


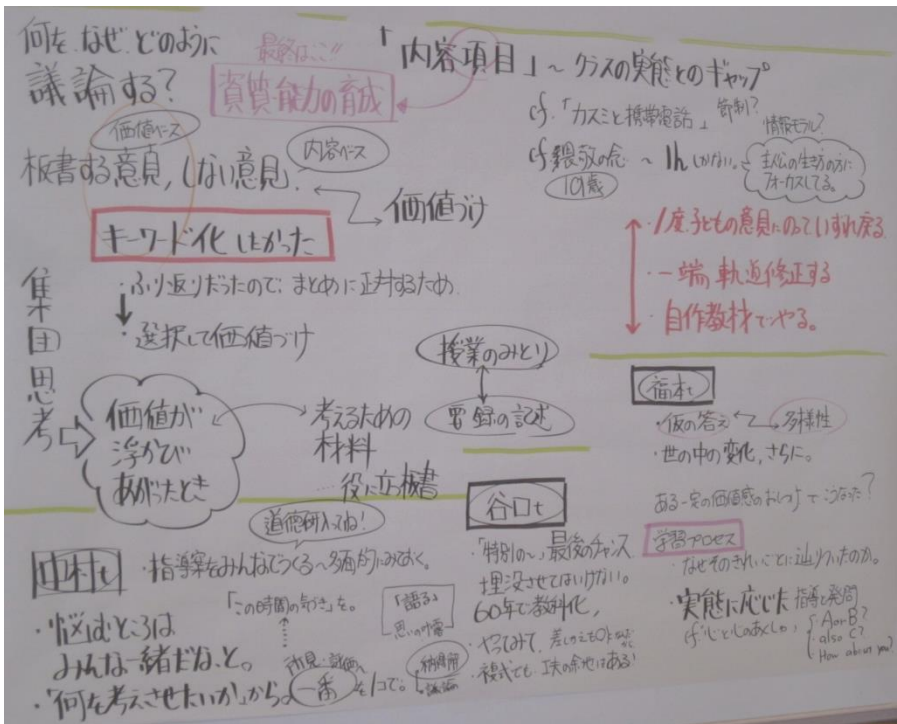
実践研修会 特別の教科道徳 「これが知りたい! 特別な教科道徳」

この時間では、養護教諭や特別支援高等部の先生方等、いろいろな先生方が集まり、道徳の悩み、評価や発問などそれぞれの悩みを相談し共有する時間になりました。

道徳の評価について多くの先生方が、「どう評価したらいいかわからない」という声がありました。先生方が普段行っている方法は、子どもが発表したことを板書し、発表した子のネームカードをはり、毎回発表したものを写真に残し、あとから見てもわかるように形にのこしているようです。

先生方の悩みとして発問について多くあり、教科書の赤刷りにのっている発問ではなく、目の前の子どもの実態にあわせて行うこと、板書では低学年では、なんでも板書すると大事なことが分からなくなるので、大事なことだけ板書するほうが良い等のご意見ありました。話の中で最後に助言者が話していたのは、**特別の教科道徳**とありますが、道徳を特別と考えず、他の教科の一つとして考え、発問や授業を行ってほしいとありました。特別な教科だから、こうしなければならないではなく、国語、算数の授業の一つとして考えてほしいそうです。





**スタート・カリキュラム 1年生 「生活と他教科との合科的・関連的な学習」**

附属小学校では、スタート・カリキュラムに力をいれていました。夏休みが始まるこの時期もスタート・カリキュラムを行っており、終わりはないと話していました。スタート・カリキュラムは幼児教育との円滑な接続の為に必要とされてきましたが、適応指導のみととらえることが多く「生活科を中核とした」姿になっていないことが指摘されているそうです。附属小では、敷地内にある附属幼稚園と連携し交流をしていました。附属小では、活動の中で学習していくので、教科書に触れないページもあるそうです。

この日は、「生活と他教科」の合科的な学習を行っていました。「生活」で育てているあさがおと「道徳」の生命尊重「うまれたてのいのち」を合わせて学習し、自分たちが育てているあさがおにも命があり、大切に育てる必要があると学習していました。この時間では、あさがおの成長等、子ども達に発言させることが多くありました。授業後に授業者が伝えていたのが「自分の気持ちを話せるようになる」「僕はこう思った！」と意欲を高めさせるために意図的に子どもたちが思っていることを沢山話をさせると言っていました。否定せずに聞いてあげることで、『思いや願いを実現させる』ことにつながるのと考えているそうです。

1年生の実態として配慮を必要とする子がいて、文字が書けない子への配慮として、ワークシートに絵で表現する欄を設けたり、子どもが話すエピソードで評価することもあるそうです。

最初の全体会での、話にもあったように、子どもが自ら「やってみたい」と思えるような課題を設定することを大事にしていると話していました。そのために話し合いでは教師側が話し合わせたいことを明確にし、子どもが話し合いをしたくなるような課題を設定する必要があると話していました。

子どもが主体的に学習に取り組めるような教師側が働きかけることが大事だと感じました。詳しくは資料を回覧しますので、ご覧ください。

